

# 新しい市民編集委員が

## 4人の意気込みや

### 文芸欄や意見の投稿を

須藤 叔彦（総社町総社・74歳）



これまで本紙は全国広報紙コンクールで、たびたび入賞したというだけあり、内容、装丁ともに優れている広報紙だと思えます。ただ、市民の声が、下か

ら聞こえてこないという実感も少なくありません。市民一人ひとりは、それぞれ雑多な意見の持ち主なので、それを吸い上げる工夫があっても良いのではないのでしょうか。

もちろん、二十八万人を超える全市民の声を、一つに集約することはとても不可能です。しかし、市民生活を送る上で重大な関心事と思われるテーマには、皆さんの意見や感想を広く求め、はどうかでしょうか。それを記事にすれば、読者の興味をますます深め、啓発していくことができると思います。

まず、その手始めとして、文芸欄の創設を提案します。「詩のまち前橋」にふさわしい詩、短歌、俳句、川柳などなど。広く



活発に意見を交わす編集会議



さまざまなテーマを紙面に

募集して紹介することは、萩原朔太郎をはじめとする多くの文人を輩出した本市の芸術文化振興に必要です。さらには、市民の皆さんの意見投稿欄を設けることも、さらに興味深い広報紙とするため良いことだと思います。

### 市民の皆さんの代表で

三輪



こうした工夫を凝らしていくことで、「みんなで作る市民編集のページ」がますます充実し、市民の声が伝わる広報紙になると思います。そのために、わたしも市民編集員として頑張っていきたいと思います。ご愛読をよろしく願っています。

明（亀里町・38歳）

の市有施設を取材しました。これからも、市民の皆さんになじみのない施設なども含め、いろいろ取材し紹介していきたいと考えています。

わたしは薬剤師であり、今は専門学校で教壇にも立っています。そうした立場や視点で、医療や教育などについての課題も検証していくつもりです。

なお、現在、全国的に市町村合併が進む中で、本市も大胡町、宮城村、粕川村と十二月に合併することが決まり、富士見村とも取り組みが行われています。こうした新たに本市になる地域についても、その名所や施設、地域づくりの活動などを紹介していきます。

これまで担当してきた記事は、市役所庁舎の案内表示や青少年に対する禁煙教育など。行政があまり取り上げてこなかったことについて、問題提起をしてきたつもりです。

また、ゴミ問題を取り上げたときには六供清掃工場へ、萩原朔太郎を取り上げたときには前橋文学館へ行くなど、いくつか